

Anchor's PERSON

「経営者として、人として
常に未来に目を向けて挑戦し続けたい」



株式会社 AS LOGISTICS
代表取締役社長

篠原 彰子

「女性をはじめ誰もが安心して働ける会社をつくりたい」——

物流業界で豊富なキャリアを重ねた篠原社長を突き動かしたのは、そんな想いだった。

多様な人材が活躍し、キャリアアップを目指せる職場環境づくりに尽力し、

健康経営にも積極的に取り組むなど、事業を通して関わるすべての人の満足を追求している社長。

その先で見据えるのはより良い物流業界、夢と希望溢れる地域や社会、そして平和な世界。

これからも常に未来に目を向け、飽くなき挑戦を続けていく。

代表取締役社長
篠原 彰子



special
X
interview



タレント
山川 恵里佳

女性をはじめ多様な人材が輝けるフィールドを創出 物流業界と社会の明るい未来を見据えて挑戦する

多様なニーズに応える倉庫業や梱包業、物流コンサルティングなどを手掛ける『AS LOGISTICS』。お客様の目線に立ったきめ細かいサービスを提供し、実績と信頼を蓄積する企業だ。同社を牽引する篠原社長は長年物流の現場で豊富な経験を重ねてきた人物で、女性をはじめ多様な人材が活躍し、安心して働き続けられる環境づくりに尽力している。そんな社長のもとをタレントの山川恵里佳さんが訪れ、様々なお話を伺った。

——早速ですが、篠原社長のこれまでの歩みからお聞かせください。

大阪市内で生まれ育ちました。中学時代にオードリー・ヘプバーンの映画「ローマの休日」を観て感銘を受け、彼女がユニセフの親善大使としての活動に尽力していることを知りまして。世界にはご飯を食べられない子どもたちや、教育を受けられない子どもたちが大勢いる。国連職員になって、そんな子どもたちをなくしたいとの想いが強くなり、大学の通信講座で学ぶようになったんです。けれども祖母の介護のため働きに出ることが難しくなり、学費を捻出できずに中退することに。国連職員の夢は断念せざるを得なくなりました。

——今では経営者としてご活躍しておられるわけですから、立派だと思いますよ。

当時の想いは「社会貢献できる会社であり続ける」「世界平和や環境問題・人権問題など微力であっても考え行動し続ける」といった当社が掲げる理念の礎になっています。国連職員になることはできませんでしたが、経営者としてお客様のお役に立ち、社員やその家族を守るのはもちろん、世界平和のために行動し、少しでも力になれる人間になっていきたいと考えています。

——現在手掛けておられる物流のお仕事はいつごろから携わるようになったらいいですか？

27歳まで祖母の介護を続けた後、派遣社員として梱包会社で梱包作業に携わ

るようになったことが現在につながっています。20トン以上あるような大きな機械の梱包を手掛けている会社で、製品に合わせて梱包方法を考えたり、コンテナに隙間なく詰めるために緻密な計算が必要だったりするなど奥の深い仕事でした。仕事に打ち込む中でやり甲斐や達成感が大きくなり、天職だと感じるようになりました。

——職人の技ですね。今では多くの女性が活躍されていますが、以前は男性が多い世界だったと思います。ご苦労はありませんでしたか。

ありがたいことに早い段階で派遣社員から社員への昇格を打診され、そしてリーダーに就任させていただき、貴重な経験を重ねました。その中で「女性だから」という理由で、理不尽な思いをしたことが何度もあります。けれども、それは実力が足りないだけで、つらいと思ったことはあまりありませんでした。祖母の介護を乗り越えたという自信があったことが大きかったのだと思います。それからより一層努力を重ねて、やがて私と「ペアを組みたい」と言ってくれる職人

さんが増えてきたんです。ようやく認められた気がして嬉しかったですね。その後は新設された梱包会社で所長として責任ある業務を経験させていただき、倉庫会社でもキャリアを重ねましたが、再び幾度となく「女性だから」という壁にぶつかったんです。頑張っても正当に評価されないなど理想とはほど遠い職場環境の中で、「自分の手で『誰もが安心して働ける会社』をつくりたい」という想いが芽生えてきました。そうして勤務先である倉庫会社を退職することを決意。ただ、倉庫業は多くの人の生活を支える社会インフラであり、一度止まってしまうと大きな影響があります。お客様にもご迷惑をおかけしたくないという想いで、勤務先から倉庫をそのまま引き継ぐかたちで独立したんです。

——責任感の強さが窺えますね。よくぞ大きな一歩を踏み出されました。

独立時はコロナ禍と重なり不安もありましたが、お客様への責任や長女として

家族を守りたいという想い、大好きなドリカムの歌が原動力となり、何とか乗り越えることができました。お客様をはじめ多くの支えもあり、お陰様で順調に歩んでこられています。また3年目に入ったころに加わってくれた妹の存在も大きいですね。信頼できるスタッフも増え、今年新拠点に移転したことを機にさらなる組織体制の強化を進めています。

——堅調に事業を推進しておられるようで、何よりです。予てから思い描いてきた理想の会社に近付いておられますか。

はい。きめ細かい配慮など女性ならではの視点やスキルを活かして活躍し、キャリアアップを目指す職場づくりに注力しており、多くの女性が日々頑張ってくれています。また、女性のみならず多様な人材が活躍できるようダイバーシティ&インクルージョンにも取り組んでいます。今年から外国人スタッフの採用をスタートし、今後は障がい者雇用から就労継続支援A型事業所の開設など福

祉分野への参入も見据えています。そして将来的には、集大成として保育施設や社員食堂のある自社倉庫の建設を目標にしています。

これからもお客様や協力会社様、そしてスタッフなど関わるすべての人の満足を追求し、企業として成長を続けていく。その先で物流業界の明るい未来を切り拓き、地域や社会に貢献していきたいです。
(2025年8月取材)

after the interview

「篠原社長の甥っ子さんやその友人など若い力にも恵まれているという『AS LOGISTICS』さん。20歳の甥っさんは小学生のころからお仕事を手伝ってこられたそうで、将来有望ですね。今後は事業承継を見据えて人材育成にも力を入れていかれるとのことですが、まだまだ社長には第一線でご活躍いただきたいです！」 山川 恵里佳・談

>>> 健康経営で人と組織の未来を切り拓く

▼誰もが安心して働ける会社をつくりたいという想いで独立を果たした篠原社長。事業立ち上げ後はその想いをかたちにすべく、社員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する「健康経営」を推進している。「社員一人ひとりが心身ともに健康であれば、幸せにつながる。それがひいては会社全体の健康にもつながると考えています」と語る社長。昼食に栄養バランスを考えたお弁当を支給したり、理学療法士による整体を毎月就業時間内に一人30分実施し

たりするなどして社員の健康づくりをサポートしている。こうした取り組みが評価され、『AS LOGISTICS』は2023年より3年連続で中小規模法人部門で「健康経営優良法人」として認定されている。今後も健康経営に取り組むことによって、社員がモチベーションを高く持って働ける環境を創出していく。そして様々なことに挑戦できる風土が生まれ、それが新規事業となり同社のさらなる成長につながる。そんな理想を実現すべく、社長はこれからも走り続ける。



- ・健康経営優良法人 2025 (中小規模法人部門 (ネクストブライト1000)) 認定
- ・健康経営優良法人 2024 (中小規模法人部門) 認定
- ・健康経営優良法人 2023 (中小規模法人部門) 認定
- ・健康宣言事業 (全国健康保険協会大阪支部)



株式会社 AS LOGISTICS

大阪府大阪市住之江区平林南 1-5-15

URL : <https://as-logi.jp/>